

3 明神壁 (みょうじんかべ)



明神壁からの見晴らし



明神壁

明神壁は手取川の中流域、若原地区にあります。明神壁の頂上には祠があり、そこからは、手取川の流れと、その両岸に広がる河岸段丘、谷あいの奥にひかえる白山を望むことができます。

若原地区の集落の裏側の谷は土砂災害警戒地となっており、過去には、実際の土砂災害により移転した集落でもあります。過去の土石流そのものを教訓にすることは難しいですが、土石流の流れる音は「ドドド…」と太鼓の音のように聞こえるため、土石流を太鼓に例えて、さらに祠と天狗のストーリーを加えると伝わりやすくなります。おそらく本当にあったことが教訓となるよう伝説になったのではないかと考えられます。

能美郡誌に「今夜明神岩、若原地内に在り、奇岩大日川畔の山腹に突出し、其高さ十間余、頂の広さ方二間、青松之に生じ中央に一小祠あり、日月を祭神とし、古来十月十六日を以て之を祀りしが、今は同字の八幡宮と共に九月十六日を例祭日とする。此地天狗の棲息するものありと信ぜられ、實伝説を伴へり。」と書かれています。昔から此処に天狗が居て、大洪水のある時はしきりに太鼓を打つと言われています。

(出典 1972年 石川県島越村史)

4 白峰かんこ踊り (しらみねかんこおどり/民謡)



市ノ瀬から見る白山

◀(3 番の意味)

白峰からさらに上流の市ノ瀬(河内)のそのまた奥の方に煙が見える
その煙が霞なのか霧なのか、または白山の御前峰が燃えている煙なのか、
母親(いね)は家から出て見て、白山が燃えている煙なら、
おじいさん(のの)の手を引き、末っ子(んなぼ)をおんぶして(おぶせ)、
山の陰(おんじ)になる裏山に逃げなさい

このかんこ踊りは、白山の開祖、泰澄大師が養老元年6月18日白山市白峰地区(旧白峰村)市ノ瀬の笹木源五郎を連れて白山に登りました。しかし、何日たっても下りてこないの、村人たちが心配し、途中まで迎えに登ったところ、夕暮れどきに修行を終えた大師が神々しい姿で現れました。村人たちは、その姿を拝するや否や、歓声を上げ、手を振り、足を踏み鳴らし、持っていたかんこなどを打ち振って歓喜で踊ったというのが起こりといわれています。

泰澄の帰還を喜んで作られた歌のため、白山の良いところである花や自然などが歌詞に表現されていますが、その一部にだけ危険なことが書かれています。それは白山が噴火した際の避難方法です。現在の白山で噴気など活動的なところは表面上見えませんが、白山は活火山であり、地震などの火山活動は現在も続いています。

泰澄は白山と関わりが深く、教訓を伝える際に歌や踊りにすることで伝わりやすとしたのではないかと考えられます。

1 河内(こうち)の奥は朝寒いとこじゃ 御前の風を吹き降ろす

ア 御前の風を御前の風を 御前の風を吹き降ろす

(ハヤシ) モーターリモーターリ

2 加賀の白山(はくさん)白砂(しろたえ)なれど 雪は降るまい六月は

ア 雪は降るまい文月兼月 唄うて舞うてお山(登り)や 雪の間に間に花が待つ

(ハヤシ) モーターリモーターリ

3 河内の奥に煙が見える いねや出て見や霞か霧か 御前の山が焼けるのか

ア お山の焼ける煙とあらば のが手を引け んなぼをおぶせ

そしておんじのうら山へ

(ハヤシ) モーターリモーターリ

4 かんこ(蚊遣火)を持って蚊のめが走る みんな一時にうちわ持て

ア みんな一時に 一時にみんな みんな一時にうちわ持て

(ハヤシ) モーターリモーターリ

(出典 2017年 白峰のかんこ踊り調査報告書)

今回紹介した伝説のうち、①千蛇ヶ池と②弘法池の話は自然の風景の当時の様子を、当時の視点で伝えているものです。また、③明神壁と④白峰かんこ踊りは災害などの教訓を語り継ぐものと考えられます。

現在のところ、多くの伝説は大きくはこの2種類に分けられると思われませんが、それは全てというわけではありません。今後、そのほかの伝説、民話についても考察が必要だと思います。

最後にもう一話ご紹介します。

石や火口湖である千蛇ヶ池などが出てきますが、少し理解しにくい言い伝えです。

5 ババ石

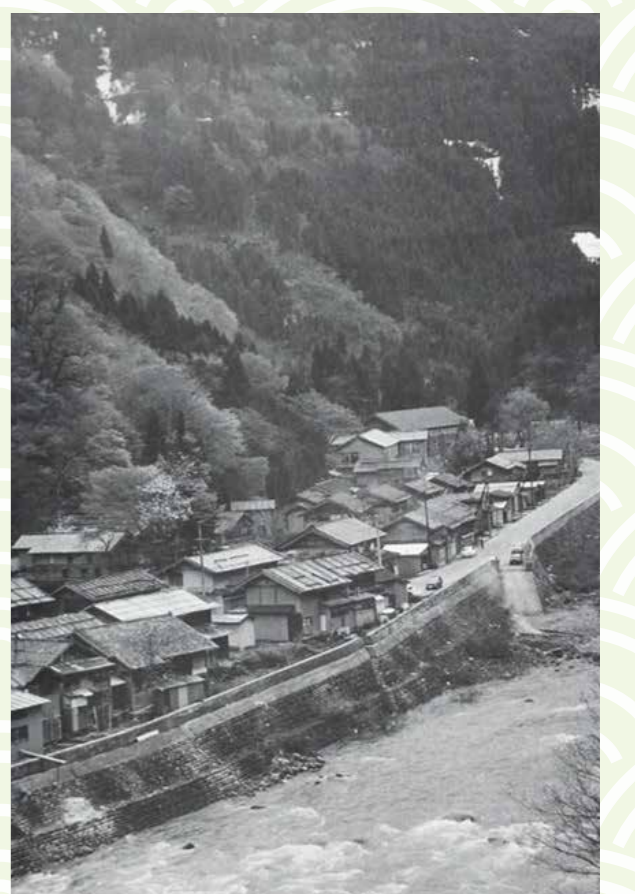
少し考えをめぐらせてみると、1年に米1粒の距離というのは、とても長い時間を表しているのではないかと考えることができます。

手取川は、日本有数の急流河川であり、併せて多雨、豪雪地帯であることから、古くから水害が多く発生していますが、この話は何十年、何百年かに1度、白山から流れる川が大雨と雪解け水によって増水し、大洪水となって流域全体に大きな被害がでる可能性があることを示しているのではないのでしょうか？

実際に、昭和9年7月11日に発生した洪水は、活発な梅雨前線による豪雨と残雪による融雪洪水も加わり大洪水となり、山頂周辺から河口域まで、堤防が数カ所で決壊し、多くの人命が奪われ、2,113町歩の耕地が土砂により埋没したという記録が残されています。

また、竜宮の乙姫さまの「ハタ」の音「コツコツ」は何を表しているのでしょうか？

このお話は何を表しているのか。はっきりとは分かりませんが、みなさん、現在の視点でジオパークとつなぎ、想像してみましょう。



昔の深瀬 (伝説の由来地)

白山市の深瀬地区より少し下流の手取川西岸にある大岩は「ババ石」とよばれています。言い伝えによれば、この大岩の内部で竜宮の乙姫が「ハタ」を織っているのだとい、岩に耳をあてて聞けば「コツコツ」という音が聞こえると言われています。また、この岩は、一年に米一粒の距離で川をさかのぼり、最終的には白山の千蛇ヶ池に達し、その時には千蛇ヶ池の千匹の蛇が一時に池から出て、大雨を降らし、大洪水となって下流は全滅の状態になると言い伝えられています。

(出典 1976年 石川県尾口村史)